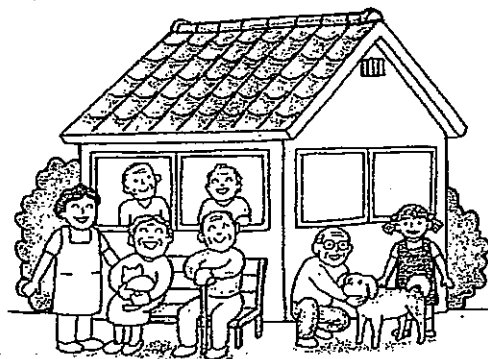


I. グループホームの基礎学習編



[單元1] 痴呆性高齢者および痴呆介護に係わる理解

1 痴呆の人の特徴の理解

(1) 痴呆とは

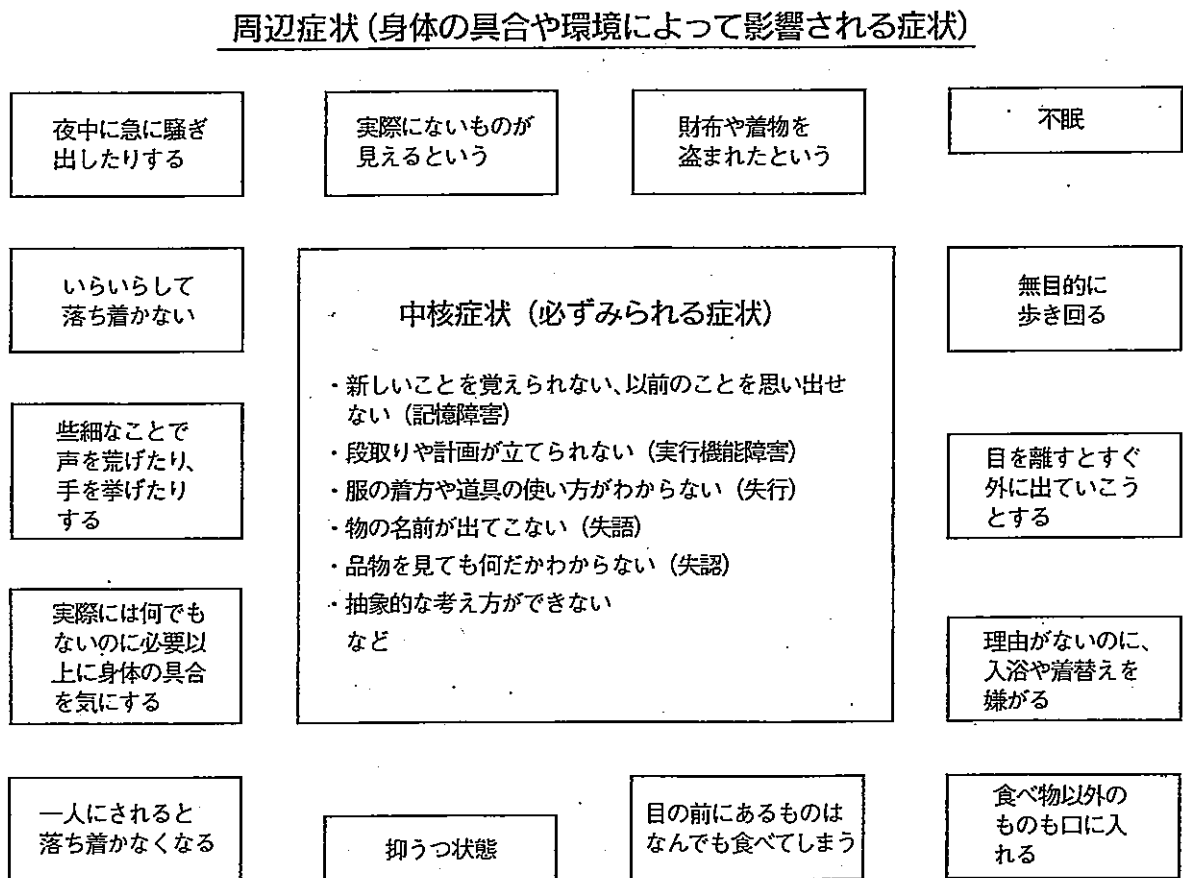
定義：「ふつうに生活できていたのだが、何らかの脳の障害によって生活に支障がでるほど知的な機能が低下した状態」

- ・定義をしっかり理解しよう
- ・それと同時に、この定義に書かれている内容が「もし自分に起こったら・・・」今の暮らしや自分の気持ちにどんな変化が起こるか・・・ぜひ、当事者の立場にたって考えてみよう

(2) 痴呆の人に現れる症状 (図1参照)

周辺症状は、環境づくりとケアで緩和できる可能性も少なくない

図1 痴呆の中核症状と周辺症状



出典：高齢者痴呆介護研究・研修センターテキスト編集委員会編著「高齢者痴呆介護実践講座1」第一法規出版



(3) 痴呆の人のたどる障害の経過(図2参照)

- ・徐々に生活全般の幅広い障害がみられてくる
- ・慢性に進む障害：「長丁場のつきあい」

図2 発病から死までの痴呆性高齢者の状態経過

障害	期	発病期	周辺症状多出期	障害複合期	重篤期
中核症状			記憶障害 見当識障害 日常会話の支障		(会話不能)
さまざまな周辺症状			周辺症状 (混乱、幻覚、妄想、興奮、徘徊など)		
身体活動能力の低下			バランスの崩れ	寝たり起きたり	寝たきり
日常の生活動作の障害			衣服の着脱動作 用便動作 洗面入浴動作 食事動作		
身体疾患等身体症状			(様々な老年病・持病)	合併症状 (発病、けいれん、肺炎など)	(のみこみの悪さ) 体重減少

部分的にできなくなる
 全面的にできなくなる

(4) 痴呆の一次要因と増悪要因

- ・一次要因(原因)と増悪要因(図3参照)：予防が可能な点もある
- ・「魔の3ロック」には特に要注意!(図4参照)

図3. 痴呆の原因と増悪因子

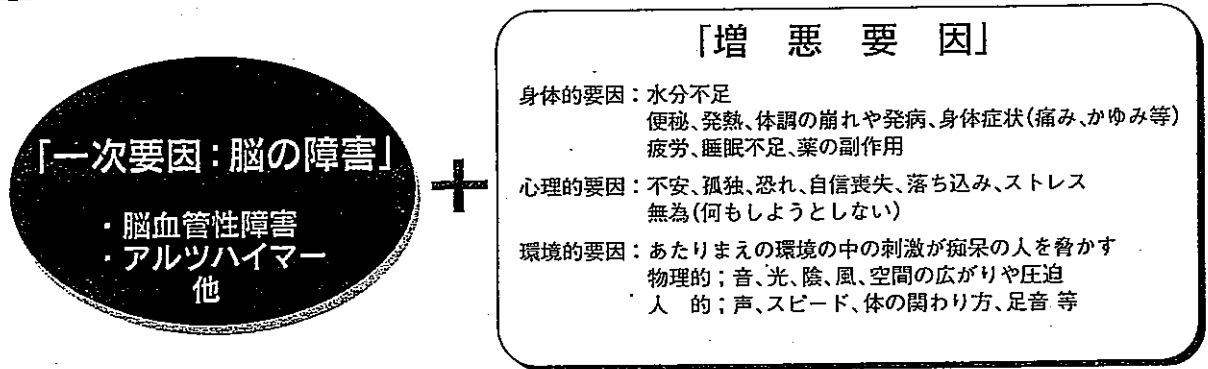
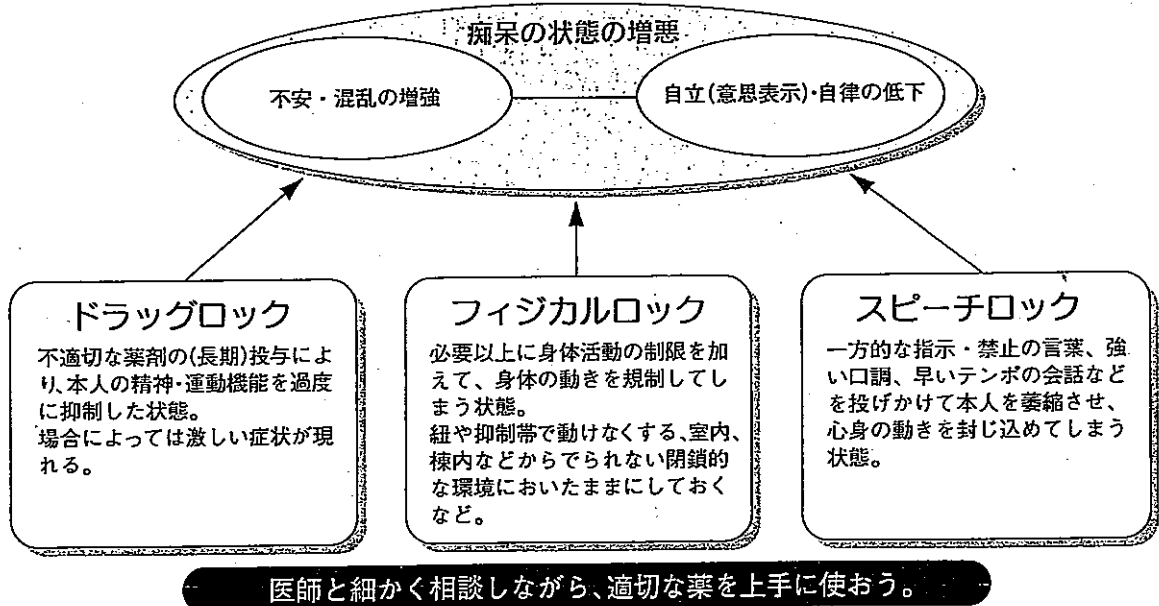


図4. 痴呆を増悪する魔の3ロック



資料：林崎、末安、永田編著「痴呆性老人、グループホームケアの理念と技術」バオバブ社



(5) 痴呆の人の特徴

- ・ 状態の変動のしやすさ
 不安やストレスに弱い
- ・ みえない障害に、本人も周囲の人(家族ら)も苦しむ
 混乱の強めあいから、どう抜け出せるか？
- ・ 「秘められている様々な可能性」が失われがち(表 1.参照)

表 1. 痴呆性高齢者に秘められている様々な可能性

からだの力	「していないこと」でも、「できること」がたくさんこっている 「やりたく」でも、「できないこと」がたくさんある	
記憶の力	①ひとつのことをゆっくりと	
	②昔の記憶が宝物 (*今を生きるための心の栄養)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人生をさかのぼった世界を体験している ・ 得意だったこと、懐かしいことは蘇りやすい
こころの力	③体で覚えた記憶の威力!	<ul style="list-style-type: none"> ・ 習慣で染みついた動作 ・ 得意なこと、張り合いごと、楽しみごと ・ 役割、出番 ・ 社交(あいさつ、礼節)
	①五感が鋭く残っている (*心地よい刺激を暮らしの中に)	<ul style="list-style-type: none"> ・ みる、聞く、味わう、嗅ぐ、さわる
	②情緒は豊かに生きている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 喜怒哀楽 ・ はずかしさ、誇り、思いやり、慈しむ心 ・ 好き嫌い、敵一味方

出典：「痴呆バリアフリー」TBSブリタニカ,2002年

演習1

「あなたがもし痴呆だったら」

・ あなたは、ふだん今の時間主にどこにいますか？
そこに自分がある姿を思いうかべて下さい。
あなたが、もし、もの忘れがひどく、
ここがどこの場所か見当がつかない(見当識障害のある)
痴呆であったら……あなたはそこでどのような体験をするでしょう？
5分間、じーっと自分の体験と向きあってみて下さい。

- ① 思いうかんだ、率直な気持ちや状態を記してみましょう。
- ② 5分後、発表しあいましょう。
人によって様々な体験をすることに気づけることでしょう。
そしてそれらの体験は痴呆の人々の「よくある姿」にそっくりでは……